

不整脈と麻酔管理

Preoperative evaluation and perioperative management of patients with arrhythmias

*林 行雄¹

*YUKIO HAYASHI¹

1. 桜橋渡辺病院

1. Sakurabashi-Watanabe Hospital

術前並びに麻酔中の患者に不整脈を見つけることはまれではない。特に麻酔中に心電図をじっくり観察すれば患者のほぼ7~8割に不整脈を見出すことになるだろう。本講演では麻酔管理と不整脈のかかわりについて比較的基本的な考え方を中心に、特に以下の2点について述べる予定です。

1) 術前に患者に未診断の不整脈を見つけたらどう対処すべきか、またあらかじめわかっている不整脈疾患を有する患者の麻酔依頼にどう返事すべきか。多くの場合、そのまま麻酔管理を引き受けることは支持される。しかし、術前になんらかの処置が必要なケースもある。その判断の根拠を述べるとともに周術期管理の留意点に言及したい。とくに不整脈疾患では心房細動、WPW症候群、QT延長症候群、Brugada症候群、不整脈原性右室心筋症、さらにはペースメーカー等のデバイス植え込み患者については個々に取り上げてみたい。

2) 次に、麻酔管理中に不整脈に遭遇した時の対処法な基本的な考え方を述べる。麻酔中の不整脈については例えば人工心肺中に大動脈遮断解除後の心室細動のように術前から予想される不整脈もあれば、予期せぬ不整脈との遭遇もありえる。とくに後者の場合は冷静かつ迅速な判断が患者予後に影響を与えかねない。いくつかの臨床に起こりうる場面を想定して、その対処法を解説したい。